

K.UNO NEWS LETTER | Vol.07

ケイウノ オーダーメイド広報通信

毎月1回、ジュエリーやオーダーメイドに関する、さまざまなヒト・コト・モノの情報をお届けする「ケイウノ オーダーメイド広報通信」

ケイウノ×伝統工芸

クラウドファンディングで全世界へ発信します



文字盤全体で上部は空を、下部は水面を表現。ムーンフェイスは水面に映り込んだ月をイメージ、金粉は夜空の天の川を表している。

ケイウノは全国に38店舗展開するジュエリーのオーダーメイドブランドです。ケイウノが取り組む活動や、サービスについて広報誌で発信しています。

今回ご紹介するのは、この夏ケイウノがスタートさせる新しい時計プロジェクト。

日本の伝統工芸「漆」をふんだんに取り入れた腕時計です。

これまでケイウノの時計部門は、オーダーメイドを中心に、針・文字盤・ベルトなど各パーツを自由に組み合わせることで2億通りを超えるデザインバリエーションを実現。また、時計裏側のローター部分に名前を入れたり、マリッジリングと同じモチーフを刻むなどのカスタムサービスを充実させてまいりました。

そうしたお客さまへの想いは変わらず大切にしつつ、さらに新たなお客さま層にお贈りするラインの一つとして、今回のプロジェクトはスタート致します。

3つの「初」で世界を目指す「優美」プロジェクト

プロジェクトの名前は「優美」。優雅で美しく気品のあるものづくりをという想いに込められた名前です。コンセプトは「今と昔」。常に新しいことにチャレンジすると同時に培われてきた旧いものを大切に、クラフトマンシップにこだわる社風を持つケイウノならではの取り組みです。

優美プロジェクトには、3つの「ケイウノ初」があります。

1つめの「初」は販路。これまで店舗販売がメインであったケイウノが初めてクラウドファンディングに取り組みます。しかも舞台はアメリカ。クラウドファンディングの草分けである「Kickstarter(キックスターター)」での開始で

す。日本でも市民権を得つつあるクラウドファンディング。すでに国内でも何社かが展開していますが、ケイウノがKickstarterを選んだのは世界に向けた規模の大きさと、同サイトがクリエイティブ系のプロジェクトで確かな実績を持っていること。おりしも今年日本に上陸することから注目を集めている同サイトですが、ケイウノでは日本でのローンチに先駆けてアメリカから全世界に向けて発信を開始します。

2つめの「初」は、製造における他社とのコラボレーション。今回の主役となる「漆」に関して、ケイウノは国内3社の老舗企業と協働しました。これまで自社工房での製作を中心に展開してきたケイウノにとっては、こうした形での

コラボレーションは初のこと。匠たちの卓越した技を製品に取り入れたいという願いと同時に、「日本のものづくりを盛り上げたい」という伝統工芸に対するケイウノの熱い想いを実現しました。

文字盤とベルトの革にそれぞれ伝統工芸である漆の技法を用いているのですが、漆が持つ力を最高の形で表現するために、文字盤は富山県の伝統工芸士である「武蔵川工房」さんに、革は兵庫県姫路市の「坂本商店」さん、奈良県宇陀市にある「春日」さんと組ませていただき、それぞれの職人さんの優れた技術をご提供いただいています。

最後3つめの「初」は新たなお客さま層に

向けた価格帯。オーダーメイドを中心に展開してきたケイウノのオリジナル時計としては手の届きやすい価格帯(¥35,000~¥45,000)を目指しました。伝統技法である漆を用いながらも数々の工夫を凝らしリーズナブルな価格を実現しました。これは現在における“時計”に対する消費者の意識を反映したのもでもあります。

漆をぜいたくに使った機能美ある腕時計「優美」

プロジェクトのコンセプト「今と昔」は、ケイウノが持つ新しいものに果敢にチャレンジする一方、クラフトマンシップにこだわり彫金などの技法を大切するという社風でもあります。これまでジュエリー部門では試みられてきましたが、今回初めて時計の部門でも取り入れ機能性と美しさを兼ね備えた新しいものが目指せるか開発と企画を始めました。調べていく中で漆の良さや古来の使われ方を改めて見直すことができ、漆の伝統技術や文化を違う新しい形にできるのでは、という想いを企画にしました。ただし、目指したのは鑑賞用の贅沢品、工芸品ではなく、漆を使いながら広く日常的にも使ってもらえる実用的な腕時計でした。

そのためにプロジェクトチームがこだわったのがデザイン。漆の魅力を最大限に活かしながらも存在感を前面に押し出すのではなく、むしろ言われないとわからないような現代

デザインに仕上げることを目指しました。肉眼でしかわかりづらい立体感のある文字盤は、漆塗りの技法の一つや重ね塗りによるもの。幾重にも重なりながら透明感を持った深みのある色合いにさりげない蒔絵技法の金粉たちが静かな存在感を放ちます。

また、時計という日常品に要求される耐久性はベルトでも具現化。例えば、「ぎょん」という小型の鹿の革を使ったベルトに用いられている「漆革」は一見「印伝」のように見えながら、製造工程も使用している革の部位も異なる手法。印伝に比べて漆の膠着にすぐれ、時計ベルトに欠かせない持久力を実現しています。また、牛革で使用しているのは「革の黒ダイヤ」の異名を誇る素材「黒棧革」。摩擦に強く、戦国時代には武士の甲冑に使われていた堅牢性を持っています。

こうした伝統工芸の技法を活かしつつ、プロジェクト全体をまとめあげた「優美」プロジェクトチームですが、コンセプト設定から製品完成までには有したのはわずか3ヶ月。予算との厳しい闘いを強いられつつも、少数精鋭のメンバーによるフットワークのよさや柔軟な対応、決定の早さを活かして現代のスピード感にあった開発期間を実現させました。

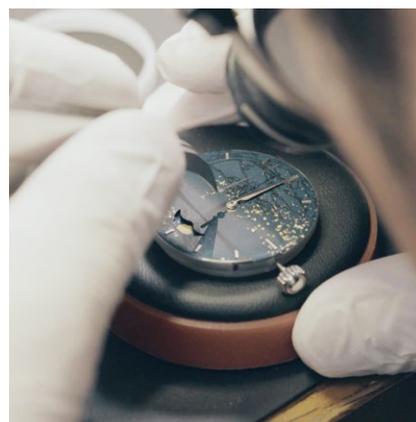
「優美」プロジェクト、Kickstarterでの始動は9月下旬。目標は日本円にして約400万円を目指します。アメリカでの目標をクリアした後は、日本での展開も視野に入れています。ケイウノ時計部門では、今回のプロジェクトをはじめとして、今後も新たな展開を予定しています。どうぞご期待ください。



「毛棒」という筆を使って細かく金粉を蒔いていく



乾燥するための専用室で時間をかけて革を乾かす



完成したパーツをケイウノの職人が丁寧に組み上げる

8月の誕生石 ペリドット



8月の暑い日差しに一連の涼やかさをもたらすような透き通ったグリーンが印象的なペリドット。その成分は、地球の奥深く、マントル部や隕石と同じとされることもある不思議なパワーに満ちた宝石です。ハワイでは女神ペレの涙と呼ばれることも。石言葉は夫婦の幸福や希望の光など。結婚記念日のプレゼントにもぴったりです。